

けんこう処方箋

北海道柔道整復師会会長 萩原 正和



ほっかいどう

水曜生きる

木曜よむ語る

金曜楽しむ

土曜考える

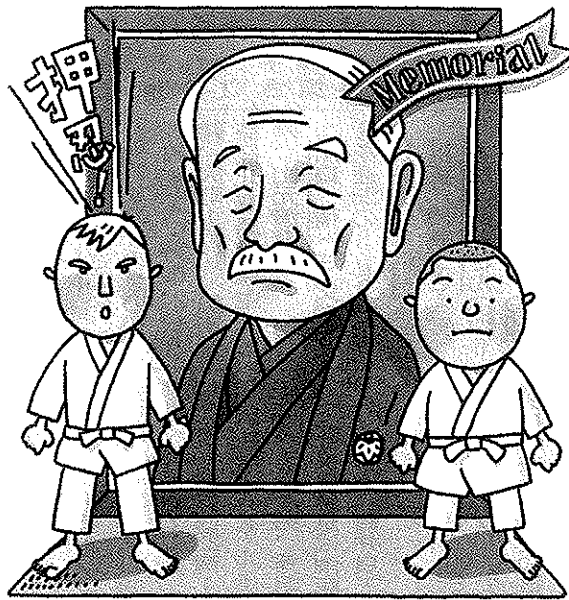
火曜学ぶ

「嘉納治五郎と樺太」ドラマ結実

歓声が響く道場の正面には講道館柔道の創始者、嘉納治五郎師範の写真が掲げられていた。畳の上で繰り広げられる攻防……。勝敗が決まると、青い目の少年は丁寧な礼をした。

場所はロシア・サハリン州ユジノサハリンスク市。旧樺太の豊原である。昨年9月、北海道から招かれた小中学生の柔道少年選手など両国総勢約140人による「第1回嘉納治五郎師範サハリン来島記念柔道大会」が同市で開催された。

嘉納師範は生前東京に在住し、生涯を柔道の教育と普及に捧げた人物だ。嘉納治五郎とサハリン州。何のつながりも無いように思うかもしれないが、ここには



イラスト・佐藤博美

大きなドラマがあった。交通機関が発達していなかった時代、私の祖父・萩原七郎(柔道整復術の公認運動をした中心人物)のつながりで講道館札幌分場を

創設したこともあり、嘉納師範は度々来道していた。私の両親を案内人として1923年と30年には樺太を訪れ、柔道普及と発展にも寄与していた。

ロシアには「サンボ」という格闘術がスポーツや軍隊などを通して広く普及している。サンボの起源に嘉納師範が大きく関与し、柔道の要素がサンボに採り入れられている。そのため、ロシアでは柔道もサンボも人気が高い競技だ。

サハリン州柔道サンボ連盟は、北海道柔道整復師会と北海道柔道連盟と協定を結び、20年近い交流を続けている。ある時、現連盟会長のカルダツシュ氏に、嘉納師範の樺太訪問や案内した人物の孫が私であることを伝えたところ、「これは運命だ。私たちの手でこれを形にしていく必要がある」と大会を企画した。

海外初である「嘉納治五郎」の名前が入った冒頭の大会には、道内の少年22人を含めて日本から30人参加し団長を務めた。現地では柔道整復師がロシアの指導者を対象にテーピングのセミナーを開催し、練習や試合でケガの防止を含めた治療ケアに当たった。当日は開催者、選手ともに緊張と興奮、期待とが入り交じた独特の雰囲気の中で、両国とも大きな成果をあげた。深い歴史背景を感じながらも、大会や練習を通して異なる文化や価値観に触れたことで、子どもたちが自国の良さや親への感謝を痛感し、柔道家としても人間としても大きく成長していくのを感じた。

今年も9月20日に現地で第2回大会が開催される。柔道指導者の交流と指導技術の発展向上、スポーツを通じた子どもたちの健全育成に努めたい。